

電力線通信

高まる期待

家庭のコンセントから高速インターネットに接続できる電力線通信(PLC)をめぐって、関係業界の関心が高まっている。松下電器産業などメーカーは十二月から対応商品を開発し、通信会社もサービスを開始する計画だ。ただ、無線LAN(構内情報通信網)との競合が想定され、一気に普及が進むか懐疑的な声も出ている。

PLCは、光ファイバー回線などと、コンセントから電源を取る専用アダプターとを接続することで通信ができるように

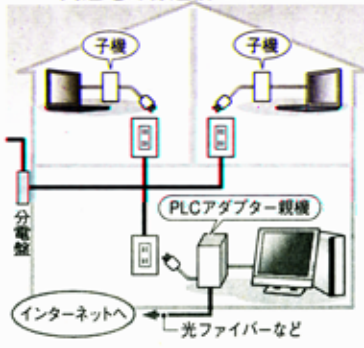
なる仕組みで、屋内の電気配線を利用するため、新たな配線は不要。どの部屋のコンセントからでも電気配線を介しネットワークに接続が可能になる。手軽さが特色で、今年九月、経済省の電波監理審議会が解禁を決めた。

これを受け松下は今年から、家庭向けPLCアダプターを発売すると発表。電気配線を利用するPLCでもハイビジョン(高精細度)映像を十分に

やりとりできるといい、「ホームネットワークの本命になる」(幹部)と期待する。来年度はアダプター内蔵のデジカメも発売する計画だ。

NECも十二月からビジネス向けにアダプターの販売を始める予定で、富士通や三菱電機など各社も追随の構え。KDDIもサービス提供を発表するなど通信事業者に加

高速電力線通信のイメージ



え、電力会社も参入に意欲を示している。ただ、PLCをめぐって経済省は二〇〇二年、雑音電波が漏れ無線通信などに影響を与える恐れがあるとして、解禁を先送りした経緯がある。今回の解禁でも、アマチュア無線家や短波ラジオ局などの反対を考慮、対策を行うことや屋内限定などの条件をつけた。

このため、一解禁が遅きれば、ネットを利用する個人の二重苦が指摘される声もある。無線LANを使うといい、PLCには強力なライバルとなる。アダプターも無線LANに無縁LANが登場。同

N用の機器と比べ、当用高となる見通し。このためPLCの需要は本当にあるのか(大手電機メーカー関係者)と、慎重な見方も出ている。

電力系通信6社

提供し、来年三月まで実施する。利用者ニーズや課題などを収集する。

PLCは十月の総務省令改正で国内の一般家庭での利用が解禁された。屋内で高速ネット接続を実現する手段としては無線LAN(構内情報通信網)が先行

電力線通信の実用試験

PLC実用試験の参加企業

会社名	所在地	出資している電力会社
ケイ・オプティコム	大阪市	関西電力
中部テレコミュニケーション	名古屋市	中部電力
エネルギア・コミュニケーションズ	広島市	中国電力
STNet	高松市	四国電力
九州通信ネットワーク	福岡市	九州電力
沖縄通信ネットワーク	那覇市	沖縄電力

一般家庭からニーズ収集

しているが、PLCは今後、家庭までは光ファイバー登場するとみられるネットなどのブロードバンド(高容量)回線を引き込む。家庭電なども手軽に接続でき、速大容量)回線を引き込む。が、屋内では電力線が通信は五十個を用意し、他の四

具体的サービス構築へ

データを送受信する。一端を室内コンセントに、もう一端をパソコンやネット家電につないで使うアダプターが必要だが、十三日に松下電器産業が国内初のアダプターを十二月九日に発売すると発表した。

電力系通信各社はPLCが普及する前提が整ったと判断、モニター家庭を対象にした実験に着手する。ケイ・オプティコムでは松下製のアダプター二百個

社も順次用意する。各社はブロードバンドサービスの一般加入者の中からネット上でモニターを集める。今回の試験は来年三月末まで実施、顧客ニーズを収集するのが目的。結果を分析し、今後の具体的なサービス内容に反映させる。

電力系通信各社は光ファイバーを使ったブロードバンドサービスで他企業と激しい競争を繰り広げている。六社の営業地域はいずれもNTT西日本の管内。家庭までの光ファイバー回線と、屋内でのPLCを組み合わせ利便性を高めることで、NTT西などに対抗していく方針だ。